カナダ ケベック・オンタリオ

ロイヤル・アグリカルチュラル・ウインター・フェア
第47回組合員海外酪農視察研修

11月５日から７日間、第47回組合員海外酪農視察研修によるカナダ視察をデーリィマン社との共催で実施いたしました。組合からは武隈監事とJHBSの藤澤が参加いたしましたので、その概要を報告いたします。

【11月５日(１日目)】

午後１時。集合時間になって知った顔、初めて会う人、そして高校生４名を含む19名の道内参加者が 千歳空港にそろい、デーリィマン社の荒川取締役と農協の千葉参事が見送りに来てくれて激励の挨拶をいただいた。羽田で日ホとLIAJの若手職員ら４名と合流し、武隈監事を団長に添乗員を含めた総勢24名の11日間の旅行の始まりです。全員が自己紹介をして機上の人となりました。

飛行機は強いジェット気流のせいか、予定の17時より20分も早く着きましたが、一人がなかなか入国審査を出てきません。皆で心配すること２時間、これを見越しての旅程ではないと思いますが次のケベック行きの便は22時過ぎ。ケベック空港には先乗りして通訳ガイドのテリー鈴木さんが出迎えてくれ、バスの中でケベック市の概要を説明していただきながらホテルに向いました。全員のルームキーをゲットして早々に部屋に入れるよう手配されていて助かりました。外は小雨の降る中で気温はかろうじてプラスを維持する寒い日で、眠たさもあり寒さが身に染みました。夜中の24時にチェックインで早々に眠りにつきました。

【11月６日(２日目)】

眠ったと思ったら、朝は早くやってきました。皆眠い目をこすりながらも今日からの視察研修を楽しみにしていることが窺えました。今日も昨夜と同じように小雨が降り、風も吹く寒い日で、ケベックではすでに２回雪が降ったようです。

午前中は市内を見て回るコースで、広大な川幅を誇り北米の水上輸送の大動脈であるセントローレンス川、そしてその畔に建つ州議会議事堂。アメリカとの闘いから国を守るための城壁の中にある都市は、北米には珍しい欧州風の狭い石畳の路地でした。

午後からは待望の牧場見学。道中、テリー鈴木さんがカナダの酪農状況を説明してくれました。カナダでも酪農家の離農は多く、毎年2.5～３%が離農し、過去25年間では40%もの酪農家が減少しているとのこと。カナダのクオーター制は企業から農家を守るためとのことですが、その権利は脂肪１kg当たりで250万円とのこと、びっくり価格です。離農する場合に権利を買ってくれる人がいなければ、オンタリオ酪農協会（OFA）が75%の価格で買い取ってくれるということでした。

・Ty-D　Holsteins(タイディ牧場)

今回初めて訪問した７年前に開設の新しい牧場です。後で分かった話ですが、この後訪問するすぐ隣のジェイコブス牧場と姻戚関係にあるらしい。

飼養頭数は220頭で、そのうち経産牛は100頭。平均能力はM10,000kg、F4.6% P3.7%だといいます。販売乳価は国内平均の72セント/L（約64円）に対して高成分なことから80セン

STローレンス川畔の城壁の広場とそこに続く路地で。風でカナダ国旗がはっきりと見えた。

TY-D牧場主にて

ト/L（約72円）。体型審査ではEXが15頭、VG45頭、残りはGP。繁殖は気に入った約20のファミリーだけで行い、年間400頭を売買しているといいます。低成分のものや搾乳用の一般牛は全頭に受精卵を移植し子孫は残さないそうです。交配は乳量ではなく、高成分と好体型のバランスの良いものを選び、SNP検査はブラジルへの輸出用にわずかな実施にとどまっています。ヤングゲノミックブルはほとんど使っておらず、後検済みの種雄牛のみを使っています。主な供用種雄牛はユニックス、ウノ、トップチーノ、ガバナーです。

今年の春から美瑛町浦牧場の後継者が実習に来ていますが、すでにJACOBSの手伝いでローヤル会場に行っていました。日本人はよく働くと評判でした。

・Ferme JACOBS（ジェイコブス牧場）

タイディ牧場のすぐ隣にあり、例年通り牧場主の旦那さんであるヤンさんが説明してくれました。

1965年オランダからの入植の３代目です。飼養頭数は昨年の報告より100頭増えた700頭で、搾乳牛は225頭。平均能力はM11,500kg、F4.5%、P3.3%で昨年の報告とほぼ同じで、体型的にはEX50頭、VG130頭、残りがGPとなっています。耕地面積は1,000エーカー（400町）あり、飼料はTy-D牧場の分も含めてすべて自家で賄っているといいます。

牛舎に入るとすぐ左側の牛床の列ががらりと空いていました。ローヤルに出品する９頭の牛床だといいます。未経産牛は出品しないとのこと。今年のアメリカのエキスポ（WDE）でグランドチャンピオンとなったLOANA（Jacobs Lauthority Loana）の牛床も当然空いていました。

現在の改良目標は、これまでの重視してきた体型と乳成分の改良から「ミルクが最も重要な要件となっています。今後生産量がこのビジネスでは重要であり、経済バランスのとれた良い牛を求めたい」と印象に残る説明を受けました。現在の交配種雄牛はユニックス、ロートラス、マーゴットの息子牛がメインで、ヤングブルは半分くらいです。受精卵は年間300～400個販売しているが、OPUはやっていないとのことです。

牛舎の外に行くと屋根はあるが一部壁のないカナダでは一般的な解放式となった寒い牛舎で育成牛が元気にはねていました。

明後日はここに居ない９頭に会うのが楽しみです。ケベックはまるで北海道にいるような酪農地帯の広がる町でした。

【11月７日（３日目）】

今日はゆっくり朝食をとって、ケベックからトロントへの移動です。海外におけるテロ行為への警戒から手荷物の検査は厳しく、国内便と思っていたら国際便並みのチェックで少し手間取りましたが、昼前にトロント空港に着き、その足で３つ目のサミットホルム牧場に向いました。

・SUMMITHOLM HOLSTEINS（サミットホルム牧場）

ここは毎年訪れる牧場で、カナダで最も早く先進的な牛舎施設の建設（20年前）や飼養管理をしています。牧場主のカール・ルイスさん（どこかで聞いた名前）が丁寧な説明をしてくれました。

中央に向かって傾斜のついた牛舎や鳥の留まれない牛舎構造、砂の牛床などはこれまでも何回も紹介されていますし、分娩後の全頭のケトーシス

▲JACOBSの入り口の壁は数々のショウ歴を物語る。
▶大型のカーフハッチで３頭が１つのペンに。

▶サミットホルム牧場主のルイスさんが丁寧に説明してくれた。

▲傾斜のついた牛舎・鳥の留まれない梁・大量に給与されたサイレージ

◀サミットホルム牧場にて

検査の実施と乳熱予防薬の投与も行っています。また、土地は1,000エーカーあり、その内コーンと牧草を400エーカーずつ耕作し、牧草は年４回カットですが、これらの作業の一切を業者に任せ、農機具は一切持っていないといいます。カナダでこれらの取り組みをいち早く取り入れた模範的な牧場です。

牧場主は牛飼いに専念し、1,000頭を飼い（昨年の報告より100頭ほど増えています）、そのうち490頭の搾乳牛の日乳量平均は42-43kgで、10か月検定でM13,400kg、F3.8%、P3.1%は、昨年より若干下がり気味です。現在の乳価は70セント/Lとのこと。EX級は14頭、VG級は160頭で、牛群の54%が５産以上、牛群の平均産次は4.2産と非常な長命性を示しています。昨年廃用となった牛の生涯能力は54,000kgに達していたそうです。牛舎を眺めると飼槽には食べきれないと思われるほどエサが給与されており、牛を見れば前肋の強く広い胸と充実した肋張、そしてしっかりとした後肢が印象に残りました。

交配は４人で自家授精を行い、初妊牛は23か月齢で分娩させ、すべての牛は分娩後60日で授精を始めています。能力の低い下位25%の牛には肉牛の精液を授精し、それ以外は性選別精液を使用。因みにホル雌子牛の販売価格は100ドル（F1は200ドル）。今後は乳成分（F%）重視で、繁殖率や妊娠率の向上に重点を置いた改良を進めていく方針と説明を受けました。

牧場では多くの人や会社の協力を得て運営されていることから、従業員には待遇を整え、それによっていい仕事をしてもらえると考えているし、出入り業者（畑作・大学・検定員・獣医など）については年２-３回集まってもらい年計画を練っているといいます。データが有効に使われるようになるし、労働者も長く居ついてくれるようになっているとのことです。

▲ナイヤガラ瀑布

夕刻、ナイヤガラ滝を目の前にするホテルにチェックイン。変幻自在の彩りにライトアップされた滝を眺めながらお休みなさい。カジノもちょっとだけ覗いてきました。

▲カナダ最大の観光地ナイヤガラ瀑布にて。

【11月８日（４日目）】

今日も肌寒い曇り空。早速ナイヤガラ瀑布の見学に。滝の上から吸い込まれそうになりながら一通り見学の後、滝壺へ船で行くツアー船に参加。下から眺める滝にワクワクしながら近づいていくと、雨の中にいるように全身水しぶきを浴びながら、圧倒的な水量と壮大さに濡れるのを忘れて一同写真を激写でした。

・ローヤル ウインター フェア

昼前に会場に到着、インターナショナルビジネスセンターで受付け、休憩の後会場を一周。今年はセールオブスターが客の多い午後から行われました。セリは歌にも似た、流れるようなリズムで始まったものの、なかなか値が上がりません。名簿を見るとショウカウそのものの出品は少なく、またインデックスも少し物足りないものが多いようでした。それでも先月のアメリカのエキスポでJr.２歳級で１位となったシドの娘牛であるJuniper Sid

▲オフィシャル(右)とアソーシエイト

▲カナダの花摘隊

▲セールオブスター

Chardonnary-ETはさすがの価格94,000ドルで競り落とされたことを次の日に聞きました。

この日の夜はロブスターを食しながら、これまでの旅の思い出話に花を咲かせました。

【11月９日(５日目)】

朝からローヤルの会場で最大のショウリングであるコカ・コーラコロシアムの前列に陣取りました。昨年までは日本のリコーがネーミングライツを持っていた会場です。さすがに本場のアイスホッケー会場で、その映像システムや音響システムは最高で、前日は本フェアで最も人気のホースショウが行われていました。

しかし、残念ながら今年の観客は少ないとの現地での話です。会場の中央付近の壁にはカナダ、アメリカの国旗のほかにイギリス、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、イスラエル、そして日本の国旗が挙げられており、少し驚くとともに感激も。

いよいよ審査です。今年のオフィシャルジャッジは、ジェイミー・ブラック氏。彼は東オンタリオのホルスタイン牧場で生まれ、現在はニューヨーク州でオポチュニティホルスタインズを経営している酪農家です。これまで60頭以上のオールカナディアンやオールアメリカンのノミネート牛を輩出しています。各クラスほぼ時間通り進行し、慎重に審査されていました。

出品は未経産７クラス、経産９クラスの合計366頭で、北海道ホルスタインナショナルショウとほぼ同じ出品頭数規模でした。しかし、そこに出品されている牛はというとさすが本場カナダです。クラスが進むにつれ経産牛では乳房の形状・付着、更に乳用強健性は「素晴らしい」の一語です。

グランド チャンピオン：
JACOBS WINDBROOK AIMO　EX-95(４-９)

そのような中、グランドチャンピオンに選ばれたのは４歳級で１位となったJACOBS WINDBROOK AIMO（EX-95 父:Windbrook）です。本牛は乳用強健性に優れ、特に前後乳房の付着、後乳房の幅・高さ、乳頭などに優位性を持っていました。昨年のローヤルでも３歳シニアクラスで１位となっており、１か月前に行われたエキスポでもクラス１位に輝いた牛です。リザーブ・グランド・チャンピオンには今年のエキスポでグランド チャンピオンのJACOBS LAUTHORITY LOANA（EX-96 父：Lauthority）が選ばれました。どちらもケベックのJACOBS牧場の繁殖及び所有牛で甲乙つけがたい素晴らしいものでしたが、過去においてエキスポとローヤルのチャンピオンが同じであったことがほとんどないというようなことが一部で囁かれていました。

道ホル協会が贈呈者となっているプレミアエキジビター賞とともに、プレミアブリーダー賞もJACOBS牧場が獲得するなど今年のローヤルはJACOBSの圧勝でした。　プレミアサイアーは１位がドアマン、２位がゴールドウインでした。因みに北米のショウは賞金制でローヤルでは出品手当てが１頭当たり10ドル、１位賞金は150ドル、２位は125ドル、３位は100ドルで以下少なくなっていくそうです。

帰国後に見たローヤルの公式ホームページには、撮り損ねたグランド チャンピオン決定後の子供たちとの喜びの詰まった写真が載っていました。

ツアー最後の日となった夜は、ステーキハウスでグラスを傾けながら美味い分厚いステーキと思い出話に花を咲かせました。その後は自由行動となり夜のトロントに消えていった人もいたとか？

RAWFのHPから

【11月10-11日（6－7日目）】

帰国の朝、時間があったので食事を済ませて小雪が舞う中、少し街に出ました。今回は晴れのほとんどない旅行でしたが、名残惜しい楽しい旅でした。帰りの飛行機も順調に飛んで、入国審査もだれ一人引っかかることなくスムースに行われ、無事全員が帰国したことを最後の報告といたします。

私にとっては思い出深いカナダへのツアー参加のチャンスをいただいたことにお礼申し上げます。この経験を少しでも生かして組合の役に立つよう心がけていきたいと思います。　（㈱JHBS参与 藤澤）

プレミアエキジビター賞（道ホル協会長賞）の贈呈

リザーブ グランド チャンピオン：
JACOBS LAUTHORITY LOANA　EX-96（6－4）

各クラス上位20位以内に入賞した雌牛の父牛リスト（3頭以上を掲載）

	種雄牛名号	未経産牛	経産牛	合　計
1	VAL-BISSON DOORMAN	25	26	51
2	MAPLE-DOWNS I G ATWOOD	10	14	24
3	BRAEDALE GOLDWYN-ET	4	18	22
4	WALNUTLAWN SOLOMON	18	1	19
5	DYMENTHOLM MR APPLES AVALANCHE	13	3	16
6	LIRR DREW DEMPSEY	6	7	13
7	CYCLE DOORMAN JACOBY-ET	7	－	7
8	MR CHASSITY GOLD CHIP-ET	4	2	6
9	MR D APPLE DIAMONDBACK	4	1	5
10	PINE-TREE SID ET	－	5	5
11	JK EDER-I CONTROL	4	－	4
12	CROTEAM LESPERRON UNIX	4	－	4
13	KH CINDERDOOR	4	－	4
14	STANTONS HIGH OCTANE	4	－	4
15	DE-SU BKM MCCUTCHEN-ET	－	4	4
16	GILLETTE WINDBROOK	－	4	4
17	MR APPLES ARMANI-ET	1	3	4
18	COMESTAR LAUTHORITY	－	3	3